

理科・社会が入試合格を左右する

英語・数学・国語の3教科の学力が重要なのは言うまでもありません。それは、入試のためというよりも、高校や大学さらには社会に出たときの基礎力として欠かすことができないからです。理科・社会ももちろん重要とはわかっていますが、優先度は3教科に比べると低くなるのは仕方がないことでしょう。このような位置にあるため、実は、理科・社会の得点力が、入試の合否を大きく左右する事態が起きてくるのです。このことを埼玉県と東京都の入試で説明し、悠学舎の理科・社会授業の特長に触れたいと思います。

東京都 東京都の最上位校の多くは、英・数・国のテストは自校作成の難しい問題を出題します。それに対して理科・社会は他の高校と同じ共通問題が出題されます。したがって、理科・社会の得点はほとんどの高校で80点を超える高い平均点となっています。平均ですから、合格するには理科・社会は、満点に近いような高得点を目指す必要があるのです。逆に言えば、そのような力のない人はそもそも受験資格がないことになります。これは、共通問題出題校でも最上位校では言えることです。

埼玉県 埼玉県立高校の上位校は、英・数のテストは学校選択問題という難度の高い問題を出題します。とくに数学は、全県の偏差値60以上の優秀な人たちの平均で40点台の前半です。このように、難しすぎるため、差がつかないという現象が起こっています。理科・社会は、共通問題です。年によって異なりますが、程よい難度で、出題傾向も一定しています。ということは、理科・社会のしっかりした得点力が、学校選択問題出題校の合否を大きく左右するといえます。

悠学舎 悠学舎の理科・社会の授業は、中2の2月から始まります。選択制ですが、ほとんどの諸君が選択します。問題演習だけではなく、きちんとした講義を行います。理科は重要単元である電気・イオンなどを、社会も出題率の高い江戸時代以降の歴史を本格的に学習します。夏期講習では、たっぷり全24日間の授業で中学1・2年の内容の復習を行い、2学期の北辰やV模擬などの会場テストで偏差値が取れるようにします。2学期は、学校の中間・期末テストの対策に力を入れるとともに、会場テスト対策も行います。冬期講習から直前の1・2月にかけては、実戦的な練習を行います。とくに、直前の演習では、理科・社会とも予想問題の演習を行います。毎年「よくあたる」と好評です。

このように、悠学舎では、とかく片手間に指導されることの多い理科と社会の本格的な指導態勢を組んでいます。これが、高い入試得点力の秘訣です。